

2005年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度で、ノバヤゼムリヤ島付近とカナダのビクトリア島付近にトラフが見られ、波数2が卓越した。中緯度では、太平洋中部と、ラブラドル高原付近から大西洋にかけて明瞭な正偏差が分布した他、バイカル湖付近や北アメリカ西岸でも正偏差が見られた。

熱帯の対流活動は、インドネシアから日付変更線付近や、インド洋の60°E~90°Eの赤道付近では、平年より活発だった。一方、ベンガル湾では平年より不活発だった。また、北大西洋のメキシコ湾からカリブ海にかけて先月に引き続き平年より活発だった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、ソマリア半島付近で高気圧性循環偏差が、インドからベンガル湾では低気圧性循環偏差が見られた。メキシコ湾では活発な対流活動に対応した低気圧性循環偏差が見られた。北太平洋の中部では高気圧性循環偏差が見られた。これに関連して、赤道域の150°E~130°W 付近では東風偏差となり、上層の東西風と逆向きの偏差となった。SOI (南方振動指数) は+0.1 (暫定値) となった。

世界の天候

① モンゴルから中央アジア東部の高温

② 中国南部からラオスの高温

③ パキスタン北部からインド中部の多雨

④ パキスタン南部からトルコの高湿

⑤ ヨーロッパ西部から南東部の多雨

ルーマニアとブルガリアでは、中旬に大雨による洪水が発生し、20人以上が死亡したと報じられた。

⑥ スペインからアルジェリアの高湿

⑦ 西アフリカ西岸の高湿

⑧ 南アフリカの高湿・少雨

⑨ カナダ中部の多雨

⑩ 米国東部の多雨

⑪ 米国西部の少雨

⑫ 米国南部から南米北部の高温

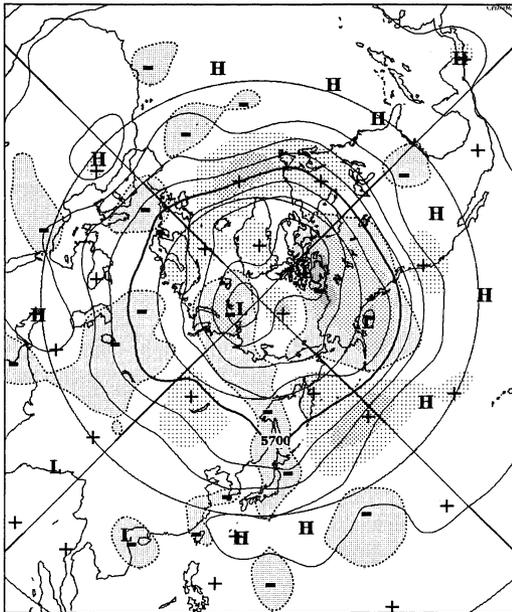
米国では、アリゾナ州を中心にイリノイ州など各地で熱波が発生し、40人以上が死亡したと伝えられた。

⑬ カリブ海周辺の多雨

カリブ海周辺では、中旬にハリケーン「デニス」、中旬にハリケーン「エミリー」の通過により、それぞれ少なくとも20人、5人が死亡したと報じられた。

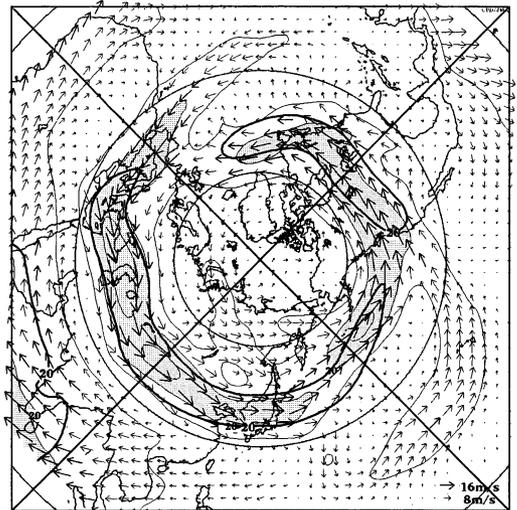
⑭ オーストラリア南西部の少雨

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 福山幸生)



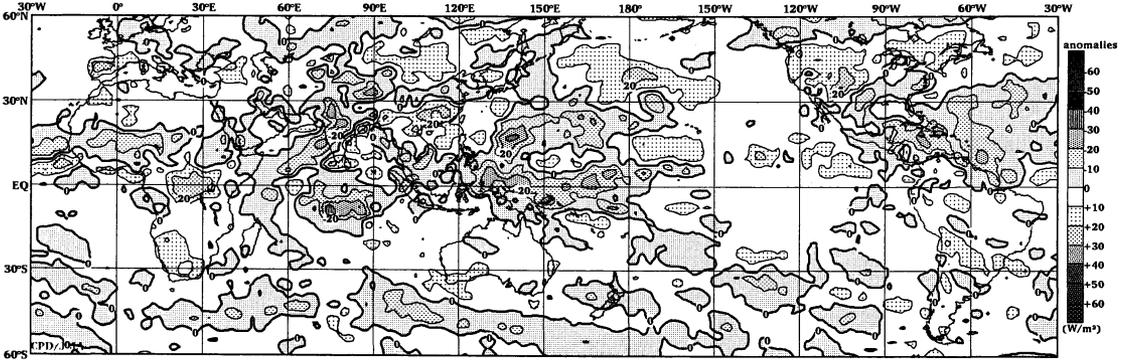
2005年7月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

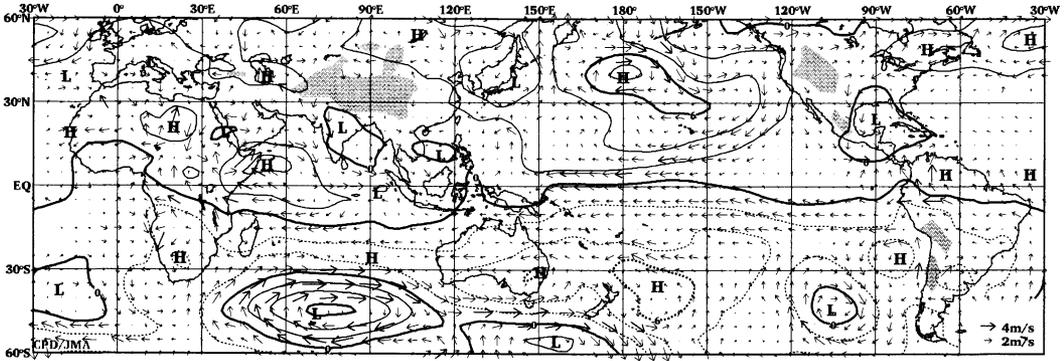


2005年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

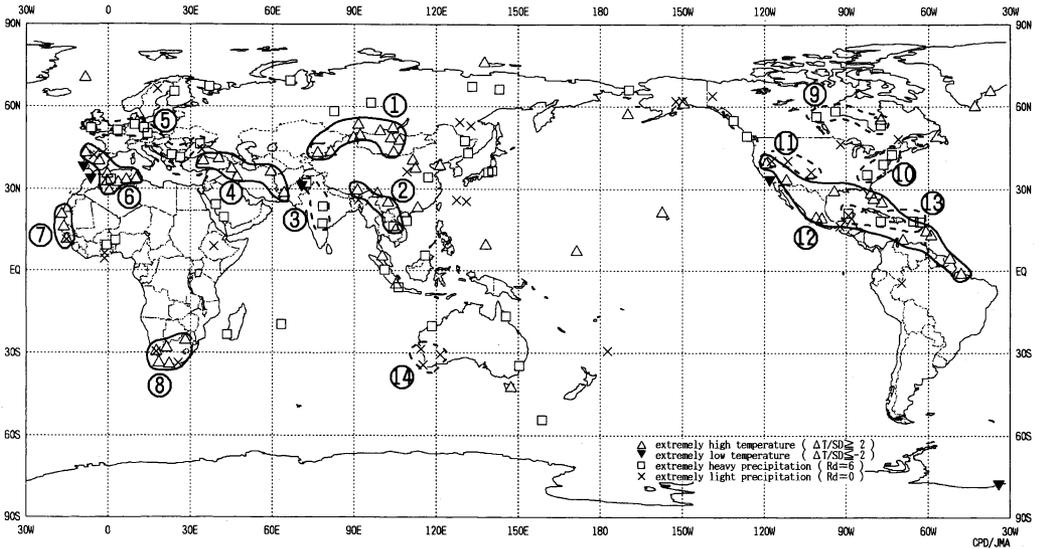
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年7月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2005年7月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。